

→自宅のピアノの前に。



藤村 太郎 くん
(滋賀県高島市朽木)

第6回

あかるいきざし

輝く子ども/ジュニアを紹介



Illustration: Chinatsu

高校には行かないけど学ぶのが好き

11月に滋賀県高島市、琵琶湖の源流にある山水人でのLIVEイベントに地元バンドで出てベースを弾いていた太郎くん。いま高一の年だが学校には行かず自宅で好きな勉強をしている。絵やお話をつくったり写真やピアノ、それに数学も好きで独習しているという。ホームスクーリングの様子と暮らしぶりを聞かせてもらった。

両親と4人兄弟で滋賀の山里、山水人の隣の谷に住んでいる太郎くん(お兄さんは現在京都在住)。数年前に一家で今の場所に引っ越してきてからはみんなで家建て、ゲストハウスを営んだり、家族バンドや地元の移住者たちとバンド活動をしている。バンドでは太郎くんはもっぱらベース奏者をしており、また小学生の頃から始めたピアノも好きで、取材に訪れたときはドビュッシーの「月の光」を弾いてくれた。楽器だけでなく、勉強も独習しているという。中学までは地元の学校に通っていたが、そのころから高校には行かないと決めていた。

太郎 ●勉強は好きやから勉強はしたいんだけど、人と合わせて同じスピードで勉強するのは良くないと思ったので高校は行ってません。でも数学が好きなので、ちょくちょく

●はい。だからそれ以外のことはしてないんで、学びたいことは深くできると思うんです。学校でいうのも悪くないんですけどね。

——学校の好きじゃないところや、学校に行かないからこそ学べることは何？

●そうですね。やっぱり押しつけてるところ。学ぶことを押しつけるのはおかしいな—と思う。押しつけられていやいや勉強してたらぜったい頭に入ってこないと思う。表向きだけやっても、嫌いになったらもうどうしようもないですね。あと、成績重視。まあそこですかね。学校に行くこと自体は好きやっただんですけど。同世代がいっぱいいるし、いい先生がいたら、それはめっちゃいいことやし。あと自分とはぜんぜん違う考え方の人と会えるし。

そして今年から近所の人との仲間に入れてもらって田んぼをはじめました。初まきからはじめ、夏は親にあずけていたけど、収穫、乾燥して我が家の食料にすることができました。自給生活の第1歩になったけど、これも進学していたらできなかったことです。

——写真を撮るのも好きらしいね。

●はい。自然の写真ですね。FBに投稿したりしてます。

自宅のすぐ裏から山に入っていけるようなところに住んでいる太郎くん。また隣の谷にある山水人の奥にはブナや様々な木が生えている生杉(おいすぎ)原生林が広がっていて、家のまわりにも動物がたくさんいる。

●さいきんは鹿とか猪が何かの形で入ってくるんですよ。それでさばいたりしてます。

この夏には同世代の友だち6~8人で40

日間、北海道を自転車旅行した。舞鶴から小樽までフェリーで行き、北海道ではずっとキャンプをしながら自転車でまわった。その時にもたくさん写真を撮ったので、帰ってからまとめてFBにアルバムとして投稿した。

●一緒に行った友達もだいたい僕みたいに高校行ってなかったりして。自転車が故障しても、自転車にめちゃ詳しい人がいて、道具も持ってきてたからなおしてくれたり。いろいろ学びあえる仲間との旅でした。それに北海道の人はみんな親切でした。なんか人格が違うんですよ。同じ日本人なのに。

高校生の年頃で1ヶ月以上も友人達と旅をするというのは貴重な学びの時間だ。また家族ではアジアの旅を何度も経験し、またドイツやフランスにも旅している。

●ドイツは10日なんですけど、エコツアーというのに参加して、ドイツとフランスに行きました。ヨーロッパは初めてだったんで、感じるものはありましたね。一番に残ってるのは、芸術に対する扱いが違いましたね。街がそういうのであふれてるんです。日本よりそういうのが大事にされてるというのか。

——そういうのを見ると日本に住んでいるのがいやになるんじゃない？

●日本は日本でもう大好きなので。日本を捨てて外国に行くとなるとあきらめみたいになってしまうし。

——それだと絶対に変わらないしね。太郎君は先が長いから、じっくりやってほしいな。



↑仲間達と北海道を40日間の自転車旅。

数学の勉強してます。ふだんは家の仕事したり、絵が好きなので絵を描いたり、写真撮ったりしてます。

——独習って時間がかかったりしない？

●そうですね、時間がかかるところもありますけど、自分がやった方が早いというところもあります。僕が学ぶべきことを一番わかっているから。

——何を学びたいかはっきりしてるんだ？

鹿をさばく太郎くん↓

